

嬉しい出会い、これも必然

私の仕事柄、お寺にご相談に来られる方を含めれば、毎月必ずと言って良いほど、新たな出会いを経験させて頂いているわけですが、先月は素晴らしい方との出会いがありました。少しご紹介させて頂きます。

彼は真言宗の僧侶です。僧名を「翠昊（スイコウ）」さんと言います。四十二歳の若さにして、三十名程の弟子さんをお持ちのようでした。彼は全国の悩める方々を少しでも癒すべく、カウンセリングをしながら全国を行脚してまわっているのです。テレビ番組『オーラの泉』でもお馴染みの江原啓之さんと修験道（山岳信仰）で一緒に修行したこともあるそう、彼は死後の世界、あるいは守護霊様からのスピリチュアルメッセージを聞き届けることが出来る不思議な能力をお持ちでした。江原さんや美輪明宏さんのカウンセリングを経験したこともある、いわゆる「本物」です。そんな彼が内々で富山にカウンセリングに来るといっ情報

聞き、ミーハーな私は数ヶ月前から、彼との面談の時間を確保していました。そして待ちに待った6月15日の午後4時…約束の時間。「こんにちわ」と言っ、彼の待つ部屋に入りました。彼は開口一番「谷川さんは風をお持ちです!」と言われました。聞くところによれば、風を持っている人は一般人の中ではほとんどおられないそうで、江原さんや美輪さんはお持ちなのだそうです。という事は、私も「本物?」という事なのでしょうか(笑)

まあまあそれはそうとして、その後前世の事やら、守護霊様の事、「先祖様の事、あるいはお寺の僧侶として生まれ育った因縁等々を、時間にして約2時間くらいだったでしょうか、お話しをさせて頂きました。お話しの内容は、全てが驚きの連続でしたが、1つだけ皆様に宣告するならば、私も将来は目に見えないモノが見えたり、感じたり出来る存在になっていくとの事でした…。にわかには信じがたいお話しですが、だとすれば、修行如何で、今よりも具体的に、檀家・信者の皆さんの苦を取り除かせて頂けるようになるのではないかと思ひ、より一層精進させて頂くとう意識を新たにしたいところ

です。

「あらゆる動物の中で人間だけが出会いによって変化していく」と言います。犬や猫、馬、牛なども「心」というものを備えていると思いますが、とは言え、人間のそれとは比べものになりません。私達は、生まれてからどんな人に出会うか、どんな経験をするかによって、その場その場の環境に順応し、みるみる変化成長していくことが出来る。「心」を持つています。ここで言う出会いとは、なにも人との出会いだけを指しているわけではありません。動物(ペット)や植物、あるいは本などを読んでいる時に会った言葉、また身体の不調なんかも出会いの範疇(はんちゅう)に入ると思ひます。身体の不調ということはどうい事かと申しますと、たとえ病気で苦しんだり、悲しんだりする事によってでも、人は変わる事が出来るという事なのです。病気を経験することによって、変わっていくのです。変えられるのです。言い換えれば、病気によって健康の有り難みに「気が付く」という事なのです。気が付くというのは、つまり「覚る(悟る)」ということなのです。覚りというのは、何も大それた事ではありません。私達は、

何かを経験する中で、その時々気が付くことがあります。それを「覚り」というのです。

色んな出会いや、出来事を当たり前の事として片付けてはいけけないのです。私達人間は必ず「欲」というものを持っています。欲があるから善いこともするし、また悪いこともするのです。しかし善い事も、悪いことも、「欲」があるから当たり前だとして、片付けるようでは、進歩成長がありません。法華経・南無妙法蓮華経を毎日唱えている私達は、今ある自分自身を追求していかなければならないのであります。「欲」がある、それは確かに結構なことです。しかしその欲も、自分よがりの欲で留まっているようでは、昨今、私達が耳にする格差社会を作りだしてしまつ事になります。格差というのは勝劣という事ですから、悩み苦しみが深まっていくことなのです。法華経には、格差がないのです。その身そのまま素晴らしいという法なのです。つまり「共存共栄」「共にある」事を教えるのです。お金持ちが偉いのかって言ったら、そうではないし、逆に貧乏が駄目なのかと問えば、

それも違う。常に「お互いに生かし合っている」という事に気が付く時、そこに格差は存在しません。頭の良い人も、頭の回転が少し遅い人も、それはそれで良いのです。出来ないならば助け合う精神が必要なのです。それが法華経という法なのです。何事も気が付かなければいけないのです。気が付いたならば、自然と「感謝」出来るのです。その時に皆さんは思い出すでしょう…「あらゆる動物の中で、人間だけが出会いによって変化していける」この言葉の意味を…。

私は毎日の出会いの中で、相手が変わっていく様を目の当たりにしながら、また同じく自分も変化していく現実に感謝しています。振り返れば、僧侶としての今の私があるのは、紛れもなく、檀家さんや信者さん方のお陰様であると断言できます。冒頭で紹介した「翠昊」さんから頂いた私への讃辞を頭の片隅に置いて、悩み多きこの世の中で苦しんでいる方々の、少しでも手助けになれるように今後も努力精進してまいります。因みに私のオーラの色は「紫」でした。紫色は「指導（喜び、感謝、

笑顔）・慈悲〓慈愛（人の悲しさ、愛情の深さ）・プライド（自分を信じる強さ）」という意味合いがあるそうです。私も精進の結果、目に見えないモノが見えたり、感じたりする事が出来るようになれば、その時は皆さんのオーラを判定させて頂きます（笑）。

合掌 副住職 谷川寛敬

